

## ★現地ルポ★

## 北海道

## 士別市綯羊基地

を訪ねて

にサホーク種を累進的にかけていき、雑種強勢を利用して、最終的には、サホーク種の全道普及飼育が目標と語っている。

チモシー  
ラデノクロ  
赤クローバ

〇一

作農家とし、堆厩肥の環元による地力維持、冬期の労働力の活用（一戸当たり三〇～一五〇頭の冬期貯飼が目標）など、意義は大きい。土別市には総額一、八〇〇万円の無利子の中小家畜資金があり、農家にはこれを利用して導入する道も開かれている。

一  
は  
じ  
め  
に

最近、畜肉の需要が急激にのび、羊肉も昭和四十一年度は九・二万㌧、金額にして一四〇億円に上る量がオーストラリアやニュージーランドから輸入されている。

て実に三六八万頭分に相当する。一方本道のマトンの需要は年間四〇万頭分程度であり、道では五七万頭の肉綿羊飼育を目標として産肉性の高いサホーク種（イギリス原産）を滝川畜産試験場に昨年十月に雄一〇頭、雌五〇頭を導入、併せて士別市が一〇〇頭、ホクレン訓子府牧場に一〇〇頭導入飼育しており、本年は、幌泉町農協、羽幌町農協、南網走農協が各々一〇〇頭ずつ導入し事業を推めている。

北海道には毛肉兼用種のコリデールが多いが、滝川畜試の近藤綿羊科長は、これら

採草地（一〇ル当たりキログラム）

オーチャードグ  
メドウフ エスク

三七

第1表 基地造成費用(单位

羊	舍	(695.6 m <sup>2</sup> )	6,773	
管	理	人宿舎 (36.9 m <sup>2</sup> )	530	
薬	浴	施設	181	
サ	イ	ロ	960	
カ	ツ	タ	ー (動力付)	114
バ	リ	カ	ン	36
コ	リ	デ	ール 400頭	3,063
サ	ホ	一	ク 100頭	4,800
		計	16,457	
士	別	市	負担分	7,217
補		助	金	9,240

基地造成（施設と綿羊導入費）に要しナム  
費用は第一表の通りである。

三 事業の概要

肢は羊毛がなく、黒色の美しい粗毛でおおわれている。体重は肉用としては大型で、雄九〇〜一二五キロ、雌で七〇〜九〇キロに達し、枝肉歩留りが高く、早熟、早肥で肉質は脂肪が少なく大理石模様で風味也非常によい。併せて体質は強健で、泌乳量も多いのでこれが子牛の発育によい結果をもたらす。飼育経済からみれば春子羊を六カ月位放牧で飼い、生体四〇キロのときラムとして出荷するのがよい。

**おわりに**

士別市は、酪農近代化計画に沿い、さら  
に哺育センター（育成牛）、養豚センター等  
畑作地帯に中小家畜を入れ、草地開発を推  
進し寒地農業確立に積極的である。

また日甜ピート工場の生バルブ（トン当り五〇〇円）も、冬期の重要な粗飼料となつてゐる。

びで、最終的にはこの基地で一、八〇〇頭と育成牛一九〇頭を放牧する計画である。

びで、最終的にはこの基地で一、八〇〇頭と

また日酣ビート工場の生バルブ(トン型)